日旅連12支部連合会、24年度の事業計画

日本旅行協定旅館ホテル連盟の全国12支部連合会長に、各連合会の今年度事業計画をアンケート形式で聞いた（①連合会、支部事業で、今年特に力を入れていること②地域キャンペーンの展開について③連合会、支部の特別企画商品について④連合会、支部の宣伝活動について⑤各種委員会の活動について⑥日本旅行に要望すること⑦傘下の会員に要望すること⑧その他）。

＝6面に続く

24年とその先の日旅連

――このほか連盟で力を入れる取り組みは。

来年の大阪・関西万博を視野に、引き続きインバウンドの誘致、受け入れ対策を会社とともにしっかり行うこと。

旅連と会社が共に進めるSDGsの取り組みも引き続き行う。環境配慮型など、さまざまなプランを企画しているが、作るだけにとどまらず、販売で実績を上げなければならない。環境問題について意識の高い人たちが旅行マーケットにも増えている。これらのプランは修学旅行に合うし、海外に向けても販売できる。ニーズを先取りしてプランを作り、しっかりと成果を収めることだ。

昨年の「日旅連塾」で、営業推進委員会のメンバーがこれらのプラン開発について事例を発表した。日旅連塾は昨年、初めて参加をしたが、単なる発表の場ではなく、参加者同士が情報交換をしたり、同業者同士のネットワークを作る場となっており、良い取り組みだと思った。

SDGsに関わる取り組みとして、日旅連の沖縄支部連合会は沖縄バリアフリーツアーセンターとの連携事業を考えている。日本旅行が各地で「いいことプロジェクト」を進めており、一昨年は同センターの那覇空港の案内所に車椅子を寄贈した。これをきっかけに日本旅行とセンターとわれわれの3者で高齢者や3世代家族向けのツアーが造成できないかと考えている。

来年、団塊の世代が全て後期高齢者になるという日本の高齢化の象徴的な年になる。車椅子の利用者など、体の不自由な人たちが旅行に行く機会がますます増えると思うし、そのような人たちにも気軽に旅行を楽しんでいただけるようになることが、インバウンドの誘客を増やすことと同時にこれからの国内旅行の活性化に必要と考える。

来年の「新たなスタート」へ準備

――来年は日本旅行が創業120周年。

大阪・関西万博の年でもある。次の新たな時代を築くスタートの年になる。今年は会社とともに、その準備を進めたい。

――3月6日に総会が開かれる。会社と会員に向けてメッセージを。

昨年はコロナ禍からの復活、復興の始まりの年。事業を段階的に再開させているが、24年はこれらを一つ一つ実績にする年だ。会社と連携を深め、今年を宿泊増売が実感できる年にしたい。

そして何より北陸・能登。私たち日旅連も最大限のことをするので、日本旅行の皆さまも同様にお願いしたい。

沖縄で取り組み、そして成功のあかつきには、その体験をほかの地域にも横展開していきたい。

――障害者差別解消法が改正され、宿泊など民間事業者も体が不自由な人への「合理的な配慮の提供」が法的義務となる。

マーケットを広げるためにも、法律に押されて行うのではなく、ポジティブに向き合った方がいい。いわゆる障害者だけではなく、日本語を話せない外国人はコミュニケーション、ベビーカーを押しているヤングカップルは移動における障害を持っているとも言える。私たちができる限りのお手伝いをすれば、お客さまからの印象が良くなり、マーケットの拡大につながるはずだ。

北海道支部連合会
プロジェクトを継続

大江友広会長

日本旅行グループ並びに連盟会員の皆さまには、日頃より多大なるご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、昨年主催致しました「REN―CUP in北海道」では、多くの皆さま方のご参加並びにご協力を賜りましたこと、この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

振り返りますと、2023年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国内・インバウンドとも旅行需要が久方ぶりに活気づいた年であったと感じます。北海道管内全体の宿泊販売についても、エリアの浮き沈みなど課題はありますが、全体としては目標を大きく超え、良い数字で終了できたと聞いております。

このような追い風の中、北海道赤い風船会ではより誘客拡大に寄与すべくさまざまな取り組みを行ってまいりました。

北海道では観光・運輸の皆さまと共同で運営する「北海道赤い風船会」において誘客活動を行っておりますが、本年はコンテンツ開発をはじめとした新たな顧客獲得・需要取り込みにつながる取り組みを行ってまいりました。一番大きい取り組みとしては、新たな教育旅行の需要を切り開くべく知床・支笏湖の2地域において教育旅行探究型コンテンツの開発を行いました。

また、層雲峡等の地域で法人・教育旅行向け素材の開発・整理を開始。北海道の魅力を新たに発信すべく取り組みました。

そして、SDGsへの新たな取り組みとしてTABLE FOR TWOと連携した「寄付金付き団体食事プラン」もリリース。現在利用促進インセンティブを実施し団体獲得に向け取り組んでいるところです。

その他Webシフトの取り組みとして、赤い風船電子クーポンを付与した「北海道おもてなしクーポン付き宿泊プラン」の継続実施や、コンテンツページを活用した地域特集並びに第4四半期販売拡大キャンペーンの実施にも取り組みました。Webでの展開は日本旅行グループの掲げるデジタルツーリズムの推進に呼応するものであり、2024年も継続してデジタルツーリズムに即した取り組みやWeb商品の発売、あるいは新入社員の皆さまに行政営業手法を学んでもらう北海道現地研修など、北海道企画・仕入センターと共同で個人・団体・訪日誘客につながるさまざまな取り組みも行ってまいりました。

本年は北海道は大きな観光トピックスがない1年ではありますが、そのような中でもしっかりお客さまに北海道にお越しいただけるよう取り組みを続けてまいりたいと思います。先述の「北海道・沖縄プロジェクト」の継続取り組みをはじめ、デジタルツーリズムの取り組みへの連動、SDGsに関連した商品やコンテンツの開発等を推進。また、昨年より急速に回復したインバウンド需要をしっかり獲得すべく、個人・グループ双方のマーケットへ積極的にプロモーションを行っていく予定です。そして地域と連携した引き続きの地域課題の解決に向けた取り組みも推進。より日本旅行・日本旅行北海道の皆さまとの連携を密に、取り組みを推進してまいります。

北海道支部連合会は日本旅行と進む方向を共にし、さらなる誘客強化を目指します。会員の皆さまには引き続き活動へのご協力をお願い致します。

最後になりますが、会員の皆さま、日本旅行グループにとりまして今年1年が幸多き年になりますよう祈念申し上げます。

新潟支部連合会
世界遺産登録に期待

白崎純也会長

平素は、新潟支部連合会の事業活動に対し、日本旅行グループ並びに会員各位より多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年は元日早々能登半島北部で発生した地震により新潟県内でも被害が出ました。幸い県内では人的被害はほとんどありませんでしたが、局所で建物の損傷があり、休業を余儀なくされている会員施設もあります。このような状況から日本旅行様をはじめ、日旅連本部、他地区の連合会よりお見舞いをいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。

2023年を振り返りますと新型コロナウイルスの5類移行に伴って、ほぼコロナ以前の状況に需要は戻ったような印象はあるものの、グループや団体については、まだ慎重な動きがあったように見受けられ、一昨年までの全国旅行支援の反動から秋以降は前年比を割り込む月も出てしまいました。

そのような中、2024年は期待膨らむ出来事が控えております。その筆頭は、佐渡金山の世界遺産登録です。今年度は7月に審査に当たる会合が予定されており、期待感が大いに高まっています。また1月31日から新潟を拠点とする航空会社「トキエア」が就航を開始しました。当面は札幌丘珠空港を結ぶ便のみの運航ですが、今後仙台や中部、神戸との路線開設の他に滑走路の短い佐渡空港に対応した別の専用機材で、東京から佐渡への就航も予定されており新たな需要の開拓が期待されています。その他、東京や庄内への玄関口でもある新潟駅のリニューアル完成も3月末に控えています。こうした交通インフラの改善をテコにしながら日本旅行様を通じ、積極的な発信から新潟・庄内エリアの誘客を図ってまいりたいと考えております。特に日本旅行様が得意とされる団体旅行は、今年こそが完全復活元年と願わずにはいられません。

また冒頭に記載致しました能登半島地震による北陸応援割をはじめとするさまざまな需要喚起策との連携、庄内との面での需要誘導などの取り組みを図り、会員様並びに地域の誘客に努めてまいります。

最後になりましたが、能登半島地震により被害を受けた会員施設様、亡くなられた方へのお悔やみを申し上げるとともに被災された皆さまへのお見舞いを申し上げます。

本年も関係各位一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東北支部連合会
「東北らしさ」で誘客

高橋明浩会長

このたびの令和6年能登半島地震により甚大な被害でお亡くなりになられた方に哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

2023年は新型コロナウイルスで運休していた空路が次々に復活し、NYタイムズに掲載された盛岡市をはじめ、訪日客の回復が顕著になった1年となりました。また、東北への日本旅行様の国内個人旅行が好調に推移し、コロナ禍前の2019年を超える、一定の宿泊実績を上げることができました。これもひとえに日本旅行関係者皆さまのご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて本年、東北支部連合会としては個人誘客に関しては、地域の観光施設と連携しWEB商品を基軸とした「東北おもてなしクーポン付き宿泊プラン」を拡大設定し、さらなる誘客に努めてまいります。

また、団体誘客と致しましては、地域行政と連携しSDGsを取り入れた探究型教育旅行プログラムおよびホープツーリズムをメインとした現地研修を実施致します。日本旅行様では首都圏・中部地区から東北への団体送客を目的とした「東北団体送客キャンペーン」を4月から6月で実施していただく予定となっており、それに伴いその他の協力団体と連携した東北誘客キャラバンおよびインセンティブ施策を実施する予定です。

また、インバウンド誘客と致しましては、青森―ソウル便の運航再開、福島―台湾便、仙台―バンコク便の新規就航が予定されており、昨年を超える訪日客に対して、高付加価値による高単価商品の設定や泊食分離の商品を数多く設定していく考えです。

4月からは山形県とJR東日本で春の観光キャンペーン「心ほどけるやまがた」が開催されます。桜の名所等を巡るツアーやさくらんぼシーズンに合わせた団体臨時列車等の運行が予定されており、多くのお客さまが山形県、東北各地へ訪れていただくことを期待しております。日本の原風景である美しい四季の移ろいを体感し、伝統文化、食や酒などの「東北らしさ」「東北ならではのおもてなし」を各地域が連携し一体となって取り組んでいくことで、誘客の拡大につながっていくものと信じております。

東日本大震災の発生から間もなく13年がたとうとしております。たくさんの方々からご支援・ご協力を賜りここまで歩みを進めることができました。これまでの経験や知識を生かし、今度は北陸の皆さまに貢献する責務があると思っております。一日でも早い復旧・復興に向けて日旅連東北支部連合会として支援を続けてまいります。

皆様の日頃のお心遣いに感謝申し上げます。
日本旅行では、これからもお客様に喜んでいただける
国内旅行をご提案してまいります。

日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY

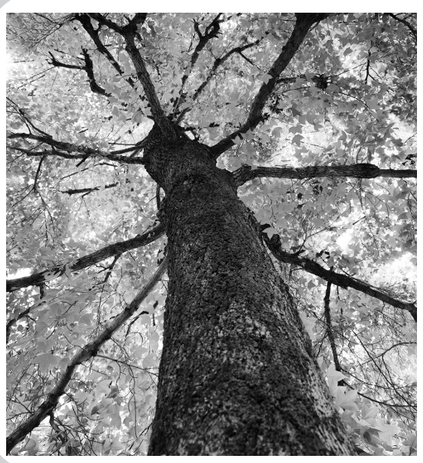
JRや新幹線を利用した旅行プランをお客さまのニーズにあわせて多数ご用意しております。

赤い風船 EX旅パック

赤い風船 JRじゃらんパック

JR楽パック 赤い風船

脱炭素社会の実現に向け、「Carbon-Zero」にご参加いただけるお客様と地域と一緒にさらなる地球環境への貢献を目指します。



赤い風船

環境にやさしい旅をしよう！

Carbon-Zero（カーボン ゼロ）

カーボン・オフセットで豊かな森を育てよう